

学習形態と学習施設に関する研究～三重大学におけるラーニングコモンスの改修計画を事例として～

正会員 ○柴山 依子 \*1

同 ハサウネ ファヘッド\*2

同 加藤 彰一 \*3

PBL 学習施設 グループワーク  
問題解決型学習 ラーニングコモンス コモンスペース

## Abstract

Recently, the development of learning facilities is becoming an essential issue in light of the change in learning-style at Japanese universities. Mie University advocates PBL, Problem Based Learning, and a group learning room was developed to facilitate PBL related activities in a more effective manner. This study reports this development experience in detail to provide recommendations for future similar learning facilities.

### 1. 研究背景と目的

現在、日本の大学では、18歳人口の減少、グローバル化などの進展を背景に、教育の質保証が大きな課題に挙げられている。その中で、教育方法面の質保証として単位制度の実質化の重要性が指摘されている。「21世紀の大学像と今後の改革方策について：競争的環境の中で個性が輝く大学」(大学審議会答申、1998年)では、単位制度を実質化させるために、教室外における学習環境を徹底させること、学生が学習する場としての大学の学習環境の整備にもこれまで以上に留意することと示されている。

三重大学では、教育特徴の一つに問題解決型学習(PBL)があげられる。しかし、教室外でグループワークに取り組む環境が十分に整備されていないという問題が挙げられていた。そこで、教室外における学習環境の整備の検討が行われ、講義室の一室を学生が授業時間外に自由にグループワークを行うことのできる学習空間への改修計画が決定された。

本研究では三重大学の教育特徴に適した学習環境の改修計画をまとめ、今後の課題・可能性などを明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究方法

ホームページなどを用いて、現在の三重大学のPBL教育への取り組み、学習形態を把握する。その後、三重大学での講義室の改修計画を整理し、今後の課題と可能性の知見を得る。

### 3. 三重大学におけるPBLの導入状況

三重大学の医学部では課題探求型のPBLを1997年から開始をし、その後2004年ごろから全学的にPBL教育を取り入れている。そのPBLの開発や推進を行っているのが、高等教育開発センター(HEDC)である。PBLの推進のた

めに HEDC では、教員向けガイド、学生向けガイドの作成、また TA のための研修会等を行っている。

教員向けガイドでは、PBL を取り込もうとする教員に対する授業のノウハウを提示している。また、PBL 型の授業では学生が主体となって学習が進んでいくため、学生側の能動的に参加しようという意識も必要となってくる。そのために、学生向けガイドでは、PBL 型授業の仕組みや学生が PBL を受講する際の心得を示している。

PBL では教員だけでなく大学院生などが TA として学生の学習への支援を行う場合もある。そのために、TA を務める院生がより効果的に学生の学習を支援することができるように、TA のための研修会を開催している。

さらに、PBL を行うにあたり、グループワークに適した学習施設が必要となってくる。そのような学習環境を整備する活動も HEDC では行っている。

### 4. 学内におけるグループ学習環境

図1はPBLの基本的な流れの例とそれに伴う必要なツールを示している。PBL型の授業では、課題を提示された後、学生は学習を進めていくために、インターネットや書籍などを用いて情報収集を行う。そして、グループで学習を進めていくため、グループ間の情報共有、交換などを行うためのディスカッションのできる施設や設備が必要となってくる。また、チューターからのアドバイスを受ける施設、設備なども必要である。

学内には授業時間外において、学生が自由に利用することのできる場所は、図書館、食堂、休憩スペース、空き教室などがあげられる。しかし、これらの場所はグループワークを行う場所として適しているとは言えない。

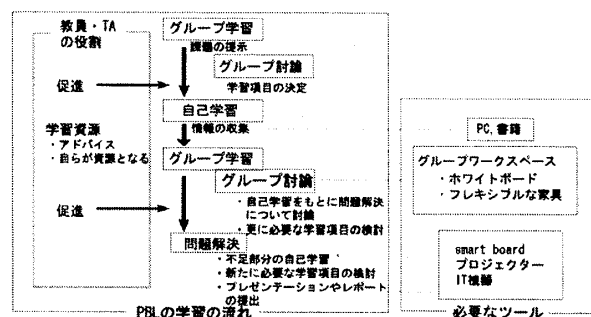


図1 PBLの基本的な流れの例と必要なツール

A Study on Relations between Learning Styles and Learning Facilities, SHIBAYAMA Yoriko \*1, KHASAWNEH Fahed A. \*2, KATO Akikazu \*3

### 5. 三重大学での講義室の改修計画

#### 1) 計画概要

主に学士課程の1、2年生を対象とした共通教育がおこなわれる講義室の一室をラーニングcommonsとしてグループ学習室に改修するという計画である。この施設の特徴としては附属図書館、食堂に近いことがあげられる。研究室からは3回の平面図の提案を行い、2010年度4月からの運用開始を目指して計画を進めた。(表1)

#### 2) ラーニングcommons施設概要

学生が主体的に学習空間をデザインすることを趣旨としたグループ学習施設の計画を行った。施設では、学生のグループワークを促進するために、無線LANの完備、図書の設置などを行い多様な情報源を使用することのできる環境を整えた。また、飲食を可能とし、什器などには黄色やオレンジ、緑を用いて附属図書館とは雰囲気の異なった学習空間としている。

施設はグループスタディ、ワークステーション、コモンエリア、ソーシャルスペースで構成をした。(図2)ワークステーションでは机、椅子、ホワイトボードなどの什器はすべて可動式のものを採用し、学生たちが目的に合った学習環境を創ることのできる場所である。(写真1、2)ここでは、様々な人数や目的に対応することができるため台形テーブルを採用した。(図3)グループスタディでは、プロジェクターを使ったプレゼン、またはその練習を行うことのできる場所である。(図4)6、8人での利用を想定し、ワークステーションよりもプライバシーを確保できる空間とした。(写真3)ソーシャルスペースはソファを採用し、ゆったりとくつろぎながら本を読むことができたり、談笑することのできる場所である。コモンエリアは、簡単な打ち合わせ、メールのチェック、スケジュールの確認など、短期利用に対応する場所ある。ワークステーションとは対照的にカフェの雰囲気を持った空間にした。(写真3)

#### 6. まとめ

今回の改修では、グループワークに特化した学習空間とした。ラーニングcommonsとしては、今後、より効果的にグループワークをすることのできる学習施設として、教員やTA、図書館員などによる人的支援、パソコンやプロジェクターなどの機器の貸出などのソフト面の充実が必要であり、学生の利用状況等を検討し、よりよい学習環境を作っていくために改善を行っていく予定である。

#### 参考文献

- 1) 「21世紀の大学像と今後の改革方策について：競争的環境の中で個性が輝く大学」 大学審議会答申 1998  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/daigaku/toushin/981002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/daigaku/toushin/981002.htm)
- 2) 三重大学高等教育創造開発センター：学生向けPBLガイド  
<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/resources/learning.html>

表1 計画スケジュール

日程	内容
2009年10月15日	平面プランの検討
11月4日	運営方針の検討 学内への説明資料の検討 平面プランの検討
11月26日	平面プランの検討
12月3日	カラーコーディネート検討
12月12日	フロア計画の完成
12月25日	運用についての検討
2010年2月16日	改修工事開始
2010年2月16日	家具の搬入
3月	セキュリティの工事
4月	運用開始

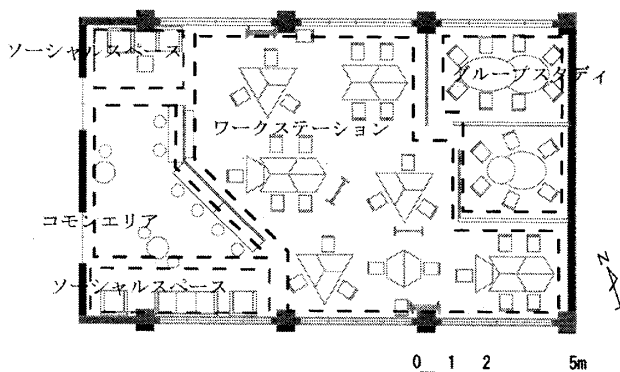


図2 講義室の改修後の平面図



写真1 ワークステーション

写真2 ワークステーション

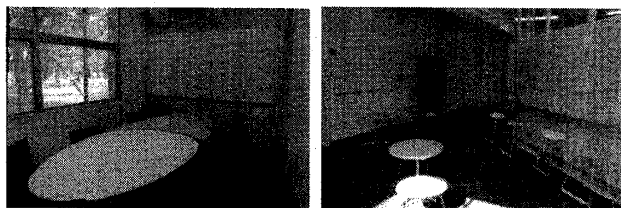


写真3 グループスタディ

写真4 コモン・ソーシャルスペース

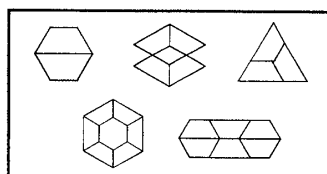


図3 机の組み合わせ例

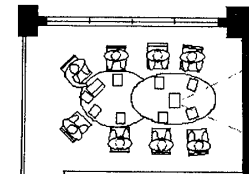


図4 グループスタディでのプロジェクターを用いた使用例

\*1 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程  
 \*2 三重大学大学院工学研究科博士課程・工学修士  
 \*3 三重大学大学院工学研究科 教授 博士(工学)

\*1 Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.  
 \*2 Doctoral Student, Graduate School of Engineering, Mie University, M. Eng.  
 \*3 Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ.